若手鉢物生産者のネットワークづくり

～尾張北西部の若手鉢物生産者のネットワークで商品開発に取り組む～

服部武史（西三河農林水産事務所農業改良普及課、
前・尾張農林水産事務所農業改良普及課）

【平成２５年８月１９日掲載】

【要約】

尾張北西部（一宮市、犬山市、江南市、稲沢市、大口町、扶桑町）には若手鉢物生産者が26名いる。農業改良普及課は平成23年度から若手鉢物生産者のネットワークづくりを開始した。若手鉢物生産者が自主的な組織活動を目標に平成24年度は、アンケート等の結果から関心の高かった“商品開発”についての研究会を開催した。

１　はじめに

尾張北西部には一宮市、犬山市、稲沢市、大口町を中心にミニバラ、シクラメン、ポインセチア、花苗、和物等、当地域の鉢物生産を担う若手鉢物生産者（20歳代～30歳代）が26名いる。多くの若手鉢物生産者は栽培技術向上や経営発展の意欲が高く、他産地の鉢物生産者の技術を学ぶことや、今後の経営発展や情報収集のための市町を越えたネットワークづくりの必要性を感じていた。そんな中、稲沢市内では鉢物農家の世代交代が進み、若手生産者による出荷組織ができるなど、広域的な組織化の機運が高まった。

そこで農業改良普及課は他の市町の若手鉢物生産者も含め、今後の産地の方向性や要望について聞き取り、平成22年から先進地視察や情報交換会、他産地の若手生産者との交流会を開催してきた。

２　平成23年度の取組

過去に開催したマーケティングの研修会や花苗栽培部門の研究会等でのアンケート結果から、若手鉢物生産者26名の内半数の13名が“商品開発”に興味があり、今の鉢物経営において重要であると考えていることが明らかとなった。

写真１
花、野菜苗の生産直売を行なうメンバーの施設での情報交換会（平成23年６月）

写真２
マーケティングについて若手鉢物生産者に説明する普及指導員（平成24年１月）

３　ネットワークづくりに向けて

（１）地区代表者の決定

平成24年に、26名の若手鉢物生産者の中からネットワークづくりに積極的なメンバーに対して地区の代表者となるよう働きかけ、合意を得た。また、全員を表１のとおり４地区に分け、各地区の代表者を決めた。地区の代表者は、組織活動の重要性を理解し、次年度の活動について意見を出し合うことができた。

表１　若手鉢物生産者　地区別の人数

地区名	構成人数
一宮市	７名
稲沢市（祖父江町、平和町）	11名
稲沢市（祖父江町、平和町以外）	５名
犬山市、大口町	３名

（２）合同研究会の開催

平成24年にネットワークづくりに向けて動き出した若手鉢物生産者を対象に、“商品開発”を考える機会として、研究会（表２）を開催した。

表２　平成24年度開催の研究会

	参加人数	ところ	目的	写真
第一回	11名	山田園芸（稲沢市）	独自の商品開発を行う鉢物生産者のほ場視察	３
第二回	9名	ＪＡ愛知西祖父江町支店（稲沢市）	独自商品のＰＲ方法についての検討	４
第三回	15名	ユニー株式会社（稲沢市）	バイヤーが重視する鉢物を観るポイントを学ぶ	５

その結果、過去に開催した研究会には参加したことがなかった若手生産者も商品開発には関心が高く、初めて研究会に参加する生産者も見られた。

また、ミニバラを栽培している若手生産者からの要望で、バラの切花農家への視察を行い、栽培する品種の選定基準やラッピング等によるの商品に付加価値を付けることの重要性について学んだ。

各研究会の参加者からは、継続的な組織活動に対する要望が出されている。

写真３
農業経営士から自分の開発した商品への思いを聴く若手鉢物生産者

写真４
参加者が自ら商品化した鉢物や農業改良普及課が用意した鉢物を見て話し合う研究会参加者

４　若手鉢物生産者に期待すること

今後は４地区の代表者が中心となって、マーケティングに基づいた商品開発を中心に経営戦略の立て方等の研究会、先進地視察等組織活動が自主的に開催できるように、農業改良普及課は関係機関と連携しながら支援を行っていく。組織活動を通じて次代を担う若手鉢物生産者が栽培技術の研究や販売促進に向けた取組を行い、尾張北西部が鉢物産地として発展していくためのネットワークができることを期待したい。

写真５
ホームセンターのチーフバイヤーによる
商品開発の必要性の講義

Copyright (C) 2013, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.